鶴田町の全小学校を1校に統合する方針に決定

「小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」の学区説明会を開催

鶴田町教育委員会（中野雄臣教育長）では、町の小学校の学区再編の方針を示す「鶴田町立小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」を策定し、町内の全小学校を1校に統合し、全町1学区制とすることを定めました。

5月23日（月）から31日（火）までの6日間、教育委員会では、管内の小学校で説明会を開催し、基本方針の内容を説明。学区再編と町内小学校の統廃合による学校の適正配置の推進について、出席した町民に理解を求めました。

今回は、基本方針の内容を抜粋してお知らせします。

△町内の各小学校で開催された学区説明会

◎学区再編の基本方針

①学校の適正配置の推進

複式による学級編制の解消、適正集団による教育活動を保障するなど、より充実した教育活動を保障するために、学区を再編し、町内小学校の統廃合による学校の適正配置を推進します。

②学区再編の具体

町内の全小学校を１校に統合し、全町１学区制とします。

③通学の安全確保

学校統合によって通学距離が延びる地域については、児童の通学に要する時間および部活動の状況などを勘案し、スクールバス等の運行を計画します。

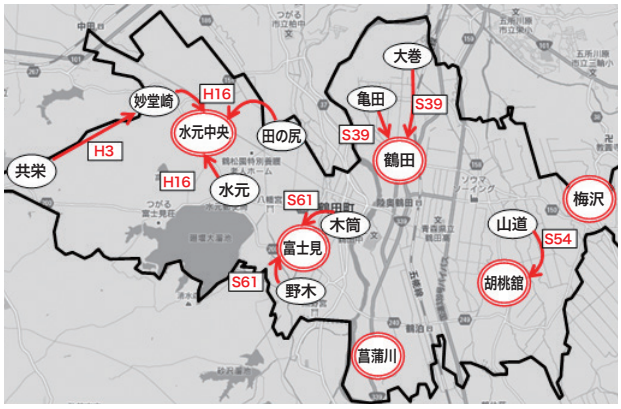
④廃校の活用

学校統合後、廃校となる学校の土地、建物については、町施設としての活用、地域住民への公共施設としての開放等、町民のニーズを踏まえて有効に活用できるようにします。

◎町の学校統廃合の歴史

鶴田町における学校統廃合の経緯は、昭和30年の町村合併以来、昭和39年の旧鶴田･亀田･大巻小学校の統廃合により鶴田小学校、昭和45年の旧鶴田・水元・六郷・梅沢中学校の統廃合により鶴田中学校、昭和61年の木筒・野木小学校の統廃合により富士見小学校、平成16年の水元・妙堂崎・水元小学校田の尻分校の統廃合により水元中央小学校となりました。

町村合併当初は13小学校（うち胡桃舘小学校山道分校、水元小学校田の尻分校、妙堂崎小学校共栄分校の３分校を含む）あったのが６校に、４中学校あったのが１校となり現在に至っています。



△鶴田町における小学校統廃合の経緯

鶴田町教育委員会
中野　雄臣　教育長

子どもたちのために１日も早く学区再編作業に取り組みます

児童数減少に伴う小学校の学区再編は、次代を担う鶴田町の子どもたちを健全に育むために避けて通れない重要課題です。

しかし、町内の各小学校においては、これまで地域と連携して多くの実績を残してきました。少人数の特色を生かし、きめ細やかな指導の充実にも努めてきています。また、地域の文化や情報発信の核として、それぞれの学校が深く地域に根付いていることも事実です。

したがって、学区再編に伴う廃校の措置等は、各学校が懸命に培ってきたこれまでの財産を手放すことでもあり、多くのリスクを覚悟しなければなりません。このことから、今回の学区再編は、これまで以上に教育効果を上げ、町内学校教育の充実に資する行政措置としなければなりません。

教育委員会としましては、ここに示した学区再編の基本方針のもと、鶴田町立小学校学区再編検討委員会から提出された意見等を十分考慮しつつ、地域住民の理解をいただきながら、１日も早く鶴田町の子どもたちが適正な環境で学び、活動し、交流し合うための学区再編作業に取り組んでまいります。

◎小学校を取り巻く状況

①町人口の推移

鶴田町の人口は国勢調査によると、旧鶴田町と水元村・六郷村・梅沢村の１町３村が合併した昭和30年には2万3251人でしたが、10年後の昭和40年には20%減の１万8600人となりました。その後徐々に減少し、50年後の平成17年には１万5218人、平成27年では１万3400人（速報値）に減少しています。

人口の年齢別構成（図１）については、年少人口（15歳未満）の割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）の割合が年々増加する傾向にあります。

図１：人口の年齢別構成（カッコ内は割合（%））

	平成 22 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年
75 歳以上	2331 人（16.3）	2581 人（20.7）	2802 人（26.3）	2592 人（28.9）
65 歳以上	1926 人（13.5）	2059 人（16.5）	1552 人（14.6）	1392 人（15.5）
15 ～ 64 歳以上	8234 人（57.7）	6650 人（53.3）	5388 人（50.6）	4238 人（47.3）
0 ～ 14 歳以上	1779 人（12.5）	1185 人（9.5）	907 人（8.5）	741 人（8.3）
合　計	**14270 人**	**12475 人**	**10649 人**	**8963 人**

「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所／平成25年3月推計）をもとに、町教育委員会が独自に推計

②児童数の推移

町内小学校の児童数は、昭和33年の3968人をピークに減少を続け、旧鶴田・大巻・亀田小学校が統合した昭和39年には2748人となりました。さらに昭和50年には1836人、昭和60年には1535人、平成７年には1141人、平成17年には907人となり、平成27年には634人に減少しています。

平成26年４月２日から平成27年４月１日生まれの子が小学１年生となる平成33年には、平成27年の634人に比べ、20.7%減少し503人になると推計されます。また、平成42年には395人、平成52年には329人になると推計されています。

図２：町の児童数の推移

	平成 27 年	平成 33 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 52 年
鶴田小学校	376 人	282 人	267 人	232 人	193 人
菖蒲川小学校	39 人	44 人	30 人	26 人	21 人
梅沢小学校	52 人	36 人	33 人	29 人	24 人
胡桃舘小学校	51 人	49 人	40 人	35 人	29 人
富士見小学校	61 人	48 人	42 人	36 人	30 人
水元中央小学校	55 人	44 人	43 人	37 人	31 人
小学校計	**634 人**	**503 人**	**455 人**	**395 人**	**329 人**

「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所／平成25年3月推計）をもとに、町教育委員会が独自に推計

◎学区再編案の変更理由

①当初基本方針では、統合小学校２校体制を想定していましたが、将来的に再統合せざるをえない状況にあり、この機会に一括統合することで、児童への負担や統合に付随するリスクを大幅に軽減することができます。

②小学校１校、中学校１校の体制をとることで、小中連携教育をよりいっそう推進することができます。

③町内の全ての子どもが、最新の教育環境と充実した施設・設備の中で学校生活を過ごすことができます。また、これまで各校に分散していた学校図書の集約化や学力向上のための体制作り等が容易となり、教育効果が期待できます。